

仏教とお寺をやさしく解説

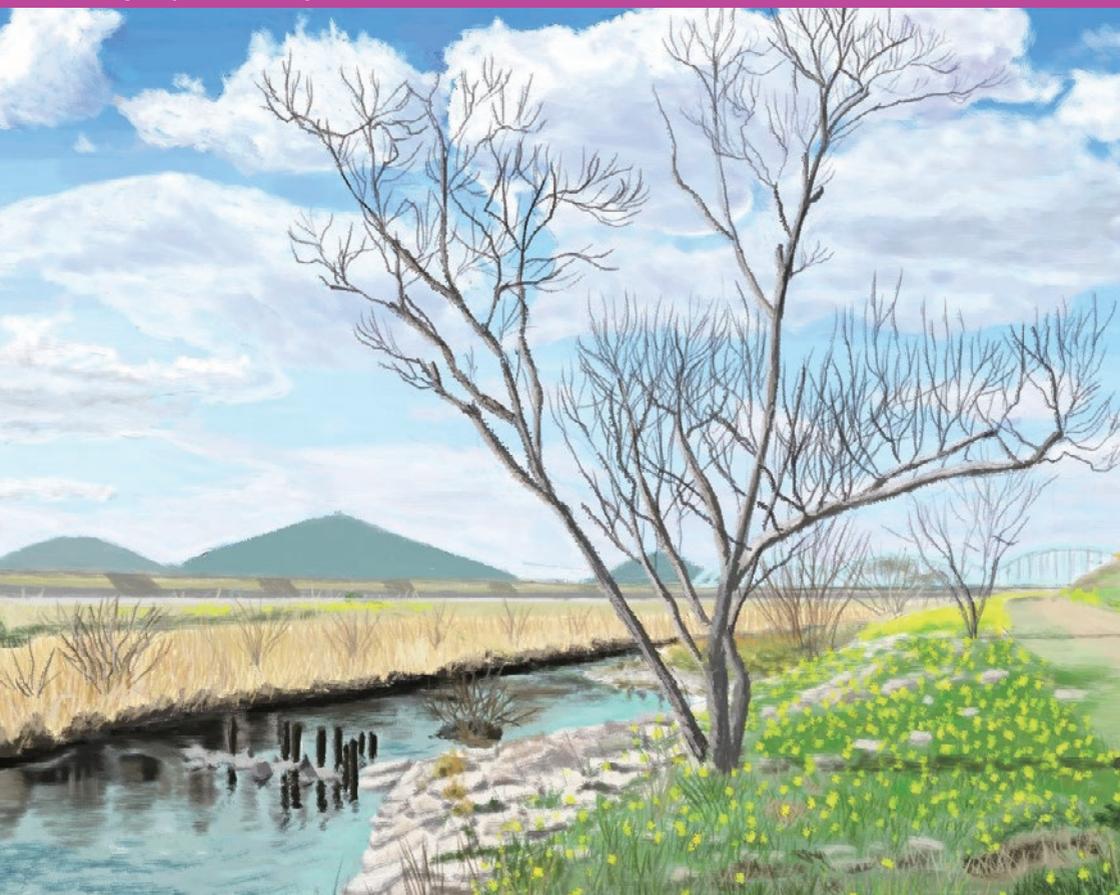
# さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2026年2月  
第64号  
(年4回発行)

春号

発行部数3千部



西願寺『さんが』創刊から今日まで  
シリーズ浄土宗／「増上寺と知恩院」  
浄土宗実践教室／合掌礼拝  
春彼岸会◆山門施餓鬼会のご案内

# 西願寺「さんが」創刊から今日まで

『さんが』は、仏教とお寺を「もっと身近に、そして分かりやすく」をテーマに、2008年12月に創刊されました。創刊から17年を経た第64号となる今号では、その歩みを振り返ってみたいと思います。



創刊号では、西願寺第三十一世・(故)丹羽尊照前住職の、温かく親しみやすいお人柄が伝わるインタビューから始まりました。

さて、「サンガ」という言葉は、漢字で書くと「僧伽」となり、サンスクリット語に由来する語です。その略が「僧」であり、「集団」や「共同体」といった意味を持ちます。

また、「僧侶」の「侶」という字にも「連れ立つ仲間」という意味があり、信仰を共にする仲間という思いを込めて、この西願寺の広報誌のタイトルを『さんが』と名づけました。

第2号では、当時副住職であった丹羽義昭住職が、西願寺のこれからの展望として、「七草粥の会」や「お寺でのコンサート」などを通じて、お寺を地域のコミュニティの場とするという夢を語られていました。

現在、西願寺では、「七福神めぐりウォーキング・新年開運七草粥の会」「厄払い節分会法要」「お月見チャリティーコンサート」が、恒例の年間行事として定着しています。

2010年のお盆号では、その年5月に執り行われた本堂の落慶式と、丹羽義昭住職の西願寺第三十二世晋山式の様子を掲載し、華やかな式典の写真が誌面を彩りました。



その後も、住職インタビューを掲載する号では、「共生（ともいき）とは」「今どきの終活」「お墓参りは必要なのか」など、その時々々の話題に即したテーマでお話を伺ってきました。また、2010年に第一回が開催された「お月見コンサート」は、翌2011年3月の東日本大震災をきっかけに、第二回から「お月見チャリティーコンサート」と名称を改め、昨年10月の開催で

第十六回を迎えました。毎年、皆さまからの参加費を支援金として、災害に見舞われた各地の被災地へお届けしています。

お寺を、多くの人が気軽に集えるコミユニケーションの場にした。」「宗教とは…」「仏教とは…」と難しく語るのではなく、仏教を知るきっかけとして、冊子を通じてお寺や仏教をより身近に感じていただきたい。そんな思いを込めて、丹羽義昭住職と丹羽尊照前住職が創刊したのが、広報誌「さんが」です。



「宗教というと、どこか身構えてしまう」「お寺は敷居が高い」——そんなイメージを、少しでも変えることができたでしょうか。

これからも、皆さまの疑問に寄り添いながら、わかりやすく親しみやすい誌面づくりに努めてまいります。

## 西願寺令和7年度 第16回 十三夜お月見チャリティーコンサート開催報告

さる令和7年10月31日、恒例となった西願寺お月見チャリティーコンサートが開催されました。

この日のゲストは、ウクライナの歌姫ナターシャ・グジーさん。ウクライナの民族楽器バンドウーラが奏でるどこか懐かしい音色と、ナターシャさんの美しい歌声が心に響く、感動的な一夜となりました。

ナターシャ・グジーさんは、いまだ戦火の収まらない祖国ウクライナへの支援活動にも力を注いでおり、この日も支援グッズとして、民族衣装「ヴィシヴァンカ」や、ブーツを使ったオリジナルレシピのレトルト・ボルシチの紹介が行われました。



## 浄土宗の教義と布教の両翼

### 「増上寺と知恩院」

浄土宗には、全国の寺院を統括する「総本山」と、地域の中心となる「大本山」があります。その中でも、京都の知恩院と東京の増上寺は、浄土宗を代表する二大寺院として知られています。



増上寺

**総本山・知恩院**は、宗祖・法然上人が晩年に布教の拠点とした寺であり、上人の入滅後、弟子の源智が遺骨を安置し廟堂を建立したことに始まります。浄土宗の教えの源流を今に伝える総本山として、荘厳な伽藍を擁し、毎年春に営まれる「御忌法要」には全国から多くの参拝者が訪れ、念仏の心を深める場となっています。

一方、**大本山・増上寺**は江戸時代に徳川家の菩提寺として栄え、東日本における浄土宗の拠点として発展しました。將軍家の墓所があることでも知られ、歴史と格式を兼ね備えた寺院です。また、全国の宗務を統括する総録所が置かれ、知恩院と並ぶ重要な地位を占めてきました。

この二つの寺院は、浄土宗における「西の精神的中心」と「東の社会的拠点」として、互いに補完し合いながら教えを広めてきました。知恩院が教義と伝統を守る場であるならば、増上寺は都市の中で人々の心に寄り添う場であると言えるでしょう。

### 江戸の庶民と増上寺

江戸時代の増上寺は、単なる寺院を超えた「都市の中の聖地」として、庶民にとっても非常に身近で重要な存在でした。「將軍家の寺」という格式を持ちながらも、念仏の教えに触れ、日々の安心を祈ることができるところとして、江戸の人々の心の拠り所となっていたのです。格式と親しみが共存する江戸の精神文化を象徴する寺院でした。



名所江戸百景 増上寺塔赤羽 (歌川広重)

浄土宗の教義は、時代を超えて人々の心に寄り添い続けています。その教えを現代に伝える拠点として、増上寺は知恩院とともに、浄土宗の「教義と布教の両翼」と言えるでしょう。

## 合掌礼拝のこころ

手のひらを静かに合わせる「合掌」は、古代インドに起源を持つ、敬意と感謝を表す美しい所作です。仏教においては、仏と私たち衆生が一体となることを象徴し、祈りや礼拝の基本として大切にされてきました。この合掌の所作は、仏教の伝来とともに日本にも伝わり、私たちの暮らしの中にも深く根付いています。

浄土宗においての合掌礼拝は、阿彌陀さまへの深い敬意と帰依の心を表す行為です。仏と自分が一体となることを象徴し、信仰の中心にある大切な実践とされています。

### 礼拝の意味とその種類

浄土宗における「礼拝」は、阿彌陀さまへの深い帰依と感謝の心を形に表す、大切な作法です。その礼の仕方には、心のこもった敬意の度合いに応じて、「上品礼」「中品礼」「下品礼」の三つに分類されます。

#### ■ 角上品礼（じょうぼんらい）

五体投地（ごたいとうち）と呼ばれる、両手・両膝・額を地につけて伏す、最も丁寧な礼です。三宝礼や三帰礼など、特に厳粛な場面で行われます。

#### ■ 中品礼（ちゅうぼんらい）

長跪（ちようき）して深く頭を下げる礼です。通常の法要や儀式の中でよく用いられます。

#### ■ 下品礼（げぼんらい）

合掌して軽く頭を下げる、略式の礼拝です。日常の中で仏さまに手を合わせる時など、身近な場面で行われます。

#### ■ 堅実心合掌（けんじつしんがっしょう）

浄土宗の合掌は「堅実心合掌」と呼ばれます。これは、仏さまと私たちが一心同体であることを自覚し、仏さまに帰依する確かな気持ちと、まっすぐな心構えを表すものです。

「堅実心」とは、衆生のありのままの真実の心を意味します。飾らず、偽らず、素直に仏さまを信じる心——それが堅実心です。

堅実心合掌では、両手のひらと指先を隙間なくぴったりと合わせ、指をまっすぐに伸ばし、四指の間も閉じます。親指と人差し指の間は、数珠をかけるため自然に少し開きます。合掌した手は胸の前に置き、やや前方に傾けます。このとき、腕と身体が約45度になるようにすると、見た目にも美しく、自然な姿勢となります。

日常の「いただきます」「ごちそうさま」と手を合わせる習慣や、仏前でも手を合わせる「合掌」は、仏さまへの敬いだけでなく、日々の命やご縁への感謝を形にする、私たちの心のあらわれでもあるのです。



## 春彼岸会

3月17日(火)～3月23日(月)

### ●春の合同彼岸会法要

日時▶3月20日(金) 10:00～

場所▶彩の都 あすま会館 3階

彩の都メモリアルパークでは、上記日程で春の彼岸会合同法要をお勤めします。是非、ご参列くださいますようお願い申し上げます。



### ●葬祭フェア開催

日時▶3月21日(土)／22日(日)  
10:00～

場所▶彩の都 あすま会館

当日は、会場で葬儀についてのご相談やご質問をお受けいたします。お気軽にお越しください。

## 西願寺

### 大施餓鬼会法要のご案内



精霊棚

日時 令和8年5月25日(月)

13時より余興(落語)

14時より法要

場所 西願寺本堂

施餓鬼会は「救拔焰口陀羅尼經」というお経に説かれた阿難尊者の話しに由来しています。先祖追福のために、また一切の生物の霊を慰め、あわせて自分自身の福德延寿を願う法要として執り行います。

子どものように可愛がっているペットが亡くなったら自分のお墓と一緒に埋葬したいと言う友人がいます。人のお墓に動物も一緒に入れることは出来るのでしょうか？

**A** 共に暮らし心を通わせてきた動物たちも大切な家族の一員です。そう考えると亡くなった後も一緒のお墓に…という気持ちになりますよね。最近では、「ペットと一緒に」を謳う霊園もあります。そこでは当然ご質問にあるように人とペットを一つのお墓に一緒に埋葬することができるとは、一般的に認められていないので、規約に定められたもの以外の埋葬を禁じているところもあります。色々な人が利用している墓地ですので、その中には動物が好きな人も苦手な人もいます。埋葬も墓地のルールに則り行うことが大事だと思います。同じお墓でなくても西願寺の「虹の都」のように墓域内のペットの合同墓や近くのペットの合同墓を利用することも考えの一つではないでしょうか。



Q & A

西願寺 TEL. 048-925-1723 FAX. 048-925-1789  
彩の都メモリアルパーク TEL. 048-921-4194

# 掲 示 板



ご住所、ご連絡先、名義人などの変更があった場合はお早めに届け出をお願い致します。



## 彩の都メモリアルパーク管理事務所 管理費口座引落としのお知らせ

令和8年度分管理費を下記の日程にて口座より引き落としをさせていただきます。口座の残高が不足している場合引き落としが完了しませんのでご確認ください。



第1回引落 令和8年3月6日(金)

第2回引落 令和8年4月6日(月)

(第1回で引落が出来なかった方のみ)

※第1回引落ができなかった場合は、4月6日に再度引落の手続きをいたします。

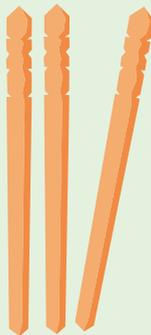
彩の都メモリアルパーク定休日：毎週水曜

## ■塔婆お焚き上げについて

当霊園では、塔婆のお申込み、又、墓所に立てる際に、塔婆お焚き上げ料として1本につき1,000円を頂戴しております。

※お寺様ご同行の方(当霊園以外での塔婆をお申込みの方)は墓前に塔婆をあげる際に管理事務所にお申し出ください。

彩の都メモリアルパーク  
管理事務所



## ペットのお墓「虹の都」

西願寺・彩の都メモリアルパークでは、家族の一員として共に過ごしてきた愛するペットたちの埋葬についてのご相談も承っています。お気軽にお問合せください。



■お便り募集■  
編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仏事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、どうぞお気軽にお寄せください。

◆イオ株式会社

西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「さんが」編集部

東京都千代田区麹町二・十・三・一〇二

FAX 03(62695)1302 Mail: info@io-conet

■次号予告

次号は令和八年五月発行予定の「夏号」です。



#### ◆編集後記◆

さんが春号が皆さまのお手元に届く2月初旬は、ちょうど立春を迎える頃。暦の上では春とはいえ、まだまだ寒さが身にしみる日々が続いています。それでも、木々の枝先には、春の訪れを待つようにしつかりとした花のつぼみが芽吹き始めています。そんな様子に、寒さの中にも少しずつ春の気配を感じていただけるのではないのでしょうか。

さて、今号の「さんが」では、増上寺と知恩院を取り上げました。徳川將軍家の菩提寺である増上寺には、十五代のうち六人の將軍が埋葬されています。江戸の人々にとって増上寺は、「將軍家の聖地」であると同時に、「日常の中の祈りの場」でもあったそうです。

そして、江戸の頃から現代に至るまで、境内の桜は多くの人々に親しまれてきました。ソメイヨシノやしだれ桜、枯天桜などが咲き誇る春の境内は、まさに心和む風景です。今年もまた、お花見の季節が待ち遠しく感じられます。

#### 発行者

遊馬山一行院 西願寺

〒三三〇〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七三

FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三三〇〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町二二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんが」編集部